



保護者の皆様へ

# いつもと違ってなんとなく元気がない と感じたら ～退院後の赤ちゃんについて～



赤ちゃんの様子がいいつもと違ってなんとなく元気がないと感じたら、それは命にかかわる大きな病気にかかっているサインかもしれません。保護者の皆様のいつもと違ってなんとなく元気がない、という漠然とした感覚は、赤ちゃんの病気の早期発見のためにとても重要です。

このような漠然とした感覚は医療用語でも「なんとなく元気がない」といい、医療関係者にとっても赤ちゃんをみる上でとても大切であるとされています。

## ＼いつもの赤ちゃんの様子と比べて違うところはありませんか？／

### 嘔乳や排せつの様子

- ・乳首を含ませても飲まない
- ・いつもと比べて1回の授乳量が少ないことが続く
- ・いつもと比べておしっこ回数や量が少ない

### 吐いたとき

- ・くり返したくさん吐く
- ・吐いた後ぐったりしていて、時間が経っても母乳やミルクを飲まない

### 顔色

- ・青白い
- ・唇や唇の周りが紫色



### 呼吸

- ・浅くて速い
- ・喉や胸のあたりからゼーゼーと音がする
- ・呼吸のたびにうなる

### 寝ているときの様子

- ・授乳から時間が経つのにずっと寝ている
- ・おむつを替えるなど刺激をしても起きない
- ・手足を動かさずだらんとしている

### 機嫌が悪いとき

- ・あやしても泣き止まず、母乳やミルクも欲しがらない
- ・泣き声がいいつもと違う(甲高い、大きい、弱々しい)



### 体温

- ・体が熱く、体温が38.5℃以上
- ・手足が冷たく、体温が36.5℃以下
- ・体温が正常でも母乳やミルクを飲まなかったり、顔色が悪かったりする

具体的に症状を説明できなくても、  
いつもと違ってなんとなく元気がないと感じたら、医療機関に相談しましょう。

以下の症状に気が付いた場合は、すぐに受診しましょう

- 目つきや顔つきがおかしい
- 呼吸が止まる
- 手足を突っ張って小刻みに震える
- おしっこやうんち、吐いたものに血が混じている



## 「再発防止に関する報告書」の分析結果について

「第10回 産科医療補償制度 再発防止に関する報告書」では、脳性麻痺発症の主たる原因がGBS感染症\*とされた事例を取り上げ、産科・小児科の医療関係者に向けて、「[なんとなく元気がない]という漠然とした症状を把握することが大切であること、保護者が「なんとなく元気がない」と感じた場合、医療機関に相談するよう保健指導を行うこと、「なんとなく元気がない」と訴えた場合は受診を勧め、必要に応じて精査すること」を提言しています。

この提言のもととなっている、退院後に医療機関を受診するきっかけとなった赤ちゃんの症状をまとめた表を紹介します。

ジーブーエスかんせんしょう  
\*GBS感染症について

- ・B群溶血性連鎖球菌びーぐんようけつせいれんきんそくきゅうきん(GBS)に感染することで発症し、髄膜炎ずいまくえんや敗血症はいけつしょうを引き起こすと死亡の原因となったり、聴力・視力の障害、運動障害、学習障害などの後遺症を生じることがある感染症です。
- ・GBSは、膣や直腸の常在菌で、妊婦の10～30%が保菌しているといわれていますが、赤ちゃんがGBS感染症を発症するのは、このうちの1%以下とされています。
- ・妊娠中のGBSの検査と抗菌薬の投与により、分娩時のGBS感染を予防することが推奨されていますが、いつどこで感染したのかわからない場合もあり、妊娠中の検査や抗菌薬の投与とは関係なく発症することもあります。

### 脳性麻痺発症の主たる原因がGBS感染症とされた事例における退院後に医療機関を受診するきっかけとなった赤ちゃんの症状

対象数=25

項目(括弧内は診療録に記載の保護者の訴え)	件数	%
哺乳不良(飲みが悪い、哺乳せず)	14	56.0
活気不良(元気がない、泣かない、ぐったりしている、寝たまま)	11	44.0
発熱(38.0℃以上、体が熱い感じ)	9	36.0
不機嫌(機嫌が悪い、泣き止まない)	6	24.0
顔色・皮膚色不良(蒼白、紅潮)	5	20.0
嘔吐	4	16.0
呼吸状態の変化(呻吟、痰が絡んだような呼吸)	4	16.0
けいれん(びくつき、凝視)	2	8.0

「第10回 再発防止に関する報告書」の「新生児管理について」P27より改変

GBS以外の細菌・ウイルスによる感染症のほかに、心臓や胃腸の病気などでも同様の症状が現れることがあります。赤ちゃんは症状と病気が一致するとは限らず、急激に症状が悪化することもあり、「なんとなく元気がない」をきっかけに受診することで、早期に病気を特定して治療を始められることがあります。

いつもと違ってなんとなく元気がないという漠然とした感覚は、  
赤ちゃんの病気を早期発見するためにとっても重要です。  
退院後も赤ちゃんをよく見て触って、  
いつもと違ってなんとなく元気がないと感じたら、医療機関に相談しましょう。

このリーフレットは、「第10回 産科医療補償制度 再発防止に関する報告書」の「新生児管理について」をもとに作成しており、報告書は産科医療補償制度ホームページに掲載しています。右の2次元コードから報告書の内容をご覧ください。

